東青
みどりの通信
No.98
平成26年
2月14日

東青地域県民局地域農林水産部
■ 農 業 普 及 振 興 室 ■
〒030 - 0801
青森市新町二丁目4番30号
TEL　017-734-9965　FAX　017-734-8305
E-mail　hi-nosui@pref.aomori.lg.jp
http://www.applenet.jp/home/08000200/index.htm

大柳壽憲さん田中稔賞を受賞！

本県の稲作農業の発展に顕著な業績を上げた個人及び団体を表彰する第33回（平成25年）「田中稔賞」を青森市高田の大柳壽憲氏が受賞されました。

「田中稔賞」は、早熟耐冷多収品種「藤坂５号」を育成し、県内外の稲作を冷害・凶作から救った田中稔博士の業績を称え、後世に伝えるべく創設されたもので、青森県稲作関係で最も権威のある賞です。

これまで東青管内では、第３回（昭和58年）の金澤峰太郎氏（青森市内真部）、第４回（昭和59年）の石田末廣氏（旧蟹田町小国）及び第28回（平成20年）の農事組合法人 羽白開発 代表理事組合長 嶋田靖氏（青森市羽白）が受賞されています。

表彰式は、相坂田中稔稲作顕彰会会長をはじめ、知事（代理：青山副知事）、青森市長（代理：永澤農林水産部次長）及び歴代受賞者など多数の関係者が出席するなか、平成25年12月17日に青森国際ホテルにて挙行されました。

この度の受賞は、大柳氏が取り組んでいる、①寒冷地稲作技術の励行による良食味・高品質米の安定生産、②水稲直播栽培、育苗箱全量施肥などの導入により経営規模の拡大、③水稲と野菜（主にトマト）の大規模複合経営の確立、④特別栽培農産物などこだわり農産物での販路拡大、⑤地域農業のレベルアップや後継者育成などが高く評価されたものです。

受賞式で、大柳氏はこれまで生産から販売まで苦難をともにしてきた仲間への感謝の思いや、消費者が「おいしい」と喜んでくれる米づくりへ一層精進していくこと、長男をはじめ今後の地域農業の担い手育成に微力を尽くしたいとの抱負などを述べられました。

大柳氏には今後とも地域のリーダーとしての活躍が期待されます。

「小橋営農組合」及び「なみおか豆や」の法人化

県では、集落などの地域を一つの会社として捉え、地域全体の収益性の向上や雇用創出、人財育成等をめざす集落営農組織や女性起業グループなどを、「地域経営体」として育成することを目標としています。

今回、青森市の集落営農組織「小橋営農組合」と青森市浪岡の女性加工グループ「なみおか豆や」が法人化し、「地域経営体」として前進したのでその概要を紹介します。

1　「農事組合法人　小橋」が誕生

「小橋営農組合」は青森市の北部に位置し、これまでは小麦とそばを栽培する転作受託組織でした。

高齢化や後継者不足により農地の維持管理が困難になってきたことから、水稲部門も共同経営する集落営農組織の法人化について検討を重ねてきました。

平成25年１月に工藤善吉組合長と阿保勲副組合長の２人が東青地域農林水産部を訪れ、法人化したいので支援して欲しいとの要望があり、「法人設立準備委員会」を設置して、関係機関を巻き込みながら具体的な話し合いを進めるようアドバイスしました。

法人設立準備委員会で検討

準備委員会では、工藤組合長が中心となって、法人の構成員、出資金、借地料、水稲部門を含めた従事分量配当の方法などについて何度も話し合いを重ねました。

平成25年11月25日、組合員８人で「農事組合法人　小橋」を設立した工藤代表理事は、今後、集落の農地をできるだけ法人に集積するとともに、乾燥調製施設を建設し、法人が中心となって集落を守っていきたいと決意を語ってくれました。

2　東青管内第1号の女性起業法人「企業組合なみおか豆や」

「なみおか豆や」は、道の駅なみおか内の店舗「豆や」で、大豆にこだわった加工販売と食事提供に取り組み、地域の女性６名をパート雇用しています。

農業普及振興室では、平成22年度から研修等で女性起業の法人化を啓発していましたが、平成24年度に加工施設移転の問題が出てきました。そこで、「豆や」の今後のあり方について共通認識を持たせるため、税理士を講師に法人化検討会を開催したり、会員の話し合いの場に参加してきました。その結果、「豆や」を継続させたい、そのためには、後継者育成と移転費用の資金借入が必要で、その組織固めとして法人化を決めました。

法人組織としては議決権が平等な企業組合を選択し、パートも含めた全員で企業組合について勉強した上で、県中小企業団体中央会の指導により、定款、事業計画作成等に取りかかり、平成25年５月29日に組合員４名で「企業組合なみおか豆や」を設立しました。

関係者を招いて開催した「設立記念の集い」

奈良岡京子代表理事は、「組合員一同、「豆や」の活動と大豆にこだわった食文化を若い人に引き継ぐため、その責任を果たしたい。」と話しながら、日々頑張っています。

「あおもり土づくりの匠」の紹介

日本一健康な土づくり運動は、平成24年度から後期（５年間）がスタートし、新たに、高度な土づくりを実践し、地域農業のリーダーとして健康な土づくりの指導的な役割を担う「あおもり土づくりの匠」認定制度がスタートしました。管内での認定者を紹介します。

桑田（くわた）　税（ちから）さん（青森市）（平成24年度耕種部門）

平成16年から土壌診断に基づき稲わら堆肥の施用や溝施肥を行うなど、基本に忠実な栽培管理と生育診断（観察）によるきめ細かな肥培管理（追肥及び水管理）で高い単収とＡ品率を安定して確保しています。平成21年にトマト栽培でエコファーマーに認定されています。

坂本佐兵衛（さかもとさへえ）さん（蓬田村）（平成24年度畜産部門）

20年以上前から高床式鶏舎内で６ヶ月以上堆積発酵した鶏糞を、専用工場でさらに連続撹拌方式により十分発酵させた後、キルン式火力乾燥機で水分15%以下に乾燥させた特殊肥料を製造しています。これまでに(社)青森県畜産協会主催の堆肥品評会で４回入賞しています。

木立吾衛（きだちごえい）さん（青森市）（平成25年度耕種部門）

10年以上前から土壌診断に基づき省力的で環境に優しい施肥設計を行い、肥効調節型肥料を使用してねぎ・トマトとも高い単収を確保しています。平成21年にねぎ及びトマト栽培でエコファーマーに認定されています。

「あおもり海道そば新そば祭り」の開催

「あおもり海道そばブランド推進協議会」では、県内有数の産地である東青産そばを「あおもり海道そば」と命名して、ブランド化に取り組んでいます。

平成25年11月２～３日に、青森市のＪＡ青森羽白野菜集出荷予冷施設で「あおもり海道そば新そば祭り」を開催しました。

蓬田村そば打ち研究会と夏井田そば研究会による、２種類の打ちたての新そばに、多くの来場者が舌鼓を打っていました。そば打ち実演、そばすいとん等、様々な出店が並び、賑わいました。

「あおもり海道そば」は、青森市内のそば店でも味わうことができます。また、乾麺や「二八ロール」や「十割クッキー」などのそばスイーツは、ＪＡ青森あすなろ直売センター等で販売されております。

そば店コーナーに長蛇の列

「あおもり海道そば新そば祭り」は、平成26年度以降も継続して同時期に開催する予定です。

■時代はギャップ、GAPを始めてみませんか■

GAP（ギャップ）というと何か特殊なことをしなければならないのではと考えてしまいがちですが、農産物と生産者である皆さんの安全性を確保するためにどのようにしているのかを自分でチェックすることから始められます。

最終的にはGAPの取組を審査機関にチェックしてもらい、JGAP等の認証を取ることもできます。

メリットとして、①リスクへの備え②農場管理の標準化③農場の信頼向上④取引の安定化などが挙げられます。かる～い気持ちでGAPを始めてみませんか。

東青地域ニューファーマー育成講座の実施

今年度から新規就農希望者及び新規就農者を対象に開催した「東青地域ニューファーマー育成講座」について紹介します。

東青地域では、新規就農者数が、近年増加していますが、非農家出身者が多く、農業の基礎的な知識が不足している場合が多数見受けられます。

そこで、平成25年11月から平成26年１月にかけて「東青地域ニューファーマー育成講座」を計６回開催し、新規就農者が営農する上で不可欠な農業の基礎知識の習得を支援しました。

講座では、生産技術及び経営に関する基礎知識として「土づくり」や「病害虫防除」、「農業簿記」等について講義を行い、受講者からは、「大変参考になった。さらに実践的なことも学びたい」との意見が出るなど好評を得ました。

また、講座には青森市や農協の担当者も出席して、情報提供を行っており、新規就農者との繋がりを強化する場にもなりました。新規就農者が早期に農業経営者として定着できるように、次年度以降も関係機関と連携して支援を継続することとしています。

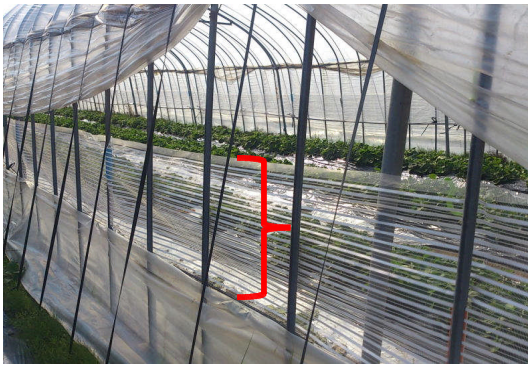
病害虫防除の研修風景

耕種的防除を利用したアザミウマ類の防除による夏秋イチゴの安定生産

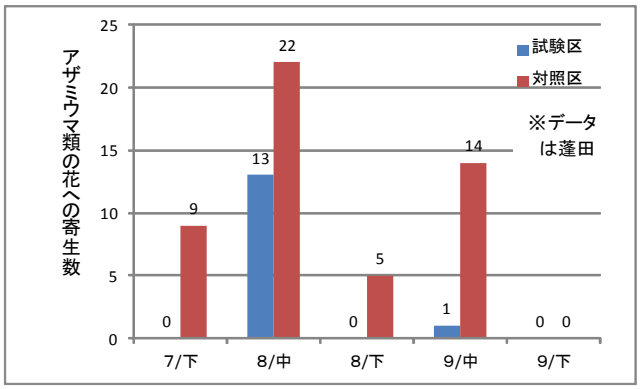
夏秋いちご栽培では、開花・収穫がアザミウマ類の発生が多い時期であり、特に、周辺雑草の防除が不十分である場合にはハウス内へのアザミウマ類の侵入が多く、果実に被害を及ぼしています。このため、農薬による防除に加え、ハウス開口部への光反射資材（商品名：スリムホワイト30）設置と雑草防除のためのハウス周辺への黒マルチ展張が、アザミウマ類のハウス内への侵入に及ぼす影響について、現地ほ場（青森市２カ所、蓬田村１カ所）において試験を行いました。

試験の結果、アザミウマの花への寄生は、時期によりバラツキがありましたが、いずれのほ場でも、試験区（スリムホワイト＋黒マルチ＋農薬による防除）が対照区（農薬による防除）より少ない傾向でした。

試験を担当された生産者の方からは、「資材の展張は、アザミウマのハウス内への侵入を抑制する効果があり、特に黒マルチを展張したことがよかったと思う。」という意見がありました。スリムホワイトは４～５年使用できるので、次年度以降も効果を確認していくこととしています。



スリムホワイトの設置状況（高さ50cm）



※寄生数は、任意の連続10花を払い落としにより調査。

農薬の適正使用に努めましょう！

農薬を使用する場合、ラベル等により各農薬に定められている使用回数、使用時期、使用濃度を確認し、それを厳守するとともに、使用状況を記帳しましょう。また、使用者の責任で最新の「農薬登録情報」をチェックしましょう。